3回戦
11年春季リーグ
第1週・4月7日
2勝1敗

文＝田上　慧
写真＝橋本圭史、野木聡介、水出綾香

白崎勇、1部初完封！

7回、左越適時二塁打を放つ岡

主将とエースの活躍で

最後の打者を抑え、喜ぶ白崎勇

岡、一発を含み3打点！

3回、先制の2点本塁打を放ち、山下とハイタッチをする岡

先発・白崎勇気（営4）は危なげない投球で9回を投げ抜き被安打5で完封。打線も主将・岡将吾（法4）が中大の島袋洋奨（1年＝興南）から右越2点本塁打を放つなど6点を奪取。7季ぶりに1部で勝ち点を挙げた。

中　大	000	000	000	0
駒　大	002	002	11×	6

［駒　大］	打安点
④小　林	200
⑨中　谷	310
⑥　岡	323
⑤白崎浩	300
⑧奥　野	311
DH 山　下	100
⑦江　越	400
②戸　柱	421
③増　本	400
	計2765

▽二塁打＝岡、戸柱
▽本塁打＝岡

	回	打安責
○白崎勇	9	365 0

1部で1287日ぶりに

勝ち点1獲得！！

中大 0−6 駒大

1勝1敗で迎えた3回戦。小椋正博監督の「白崎勇に尽きる。よく投げてくれた」という言葉が、全てを物語っていた。

3回まで無安打に抑える上々の立ち上がりを見せたが、4回以降は毎回出塁を許した。それでも、「自信を持って投げられている」ストレートを軸に、要所を締めた。

最大の危機は8回だった。2本の内野安打と四球で1死満塁の場面を迎えるが、「ホームランを打たれても勝ち越されない。しっかり投げ切ることを意識した」と冷静になり、後続を打ち取った。

エースの投球に打線も奮起。主将の岡は3回に中大先発の島袋から放った右越2点本塁打を含む2安打3打点の活躍。6回には奥野智也（経4）の中前2点適時打で追加点を挙げると、8回にも戸柱恭孝（現3）がダメ押しの右越適時二塁打を放ち、試合を決めた。

135球、被安打5、奪三振6の完封を成し遂げた白崎勇は「できすぎ。ただ、今日は打線が打ってくれたからスムーズに投げられた」と、チームメイトに感謝。その一方で、5番を担う奥野は「エースとキャプテンがやってくれた」と、中心選手の活躍が07年秋の青学戦以来の勝ち点につながったことを語った。

次戦の相手は青学大。選手たちは「昨年の屈辱を晴らす」と口をそろえる。「今までやってきたことは変えない」と話した岡。駒大の野球を貫き、全力で勝ちにいく。

6回、中前適時打を放った奥野

PICK☆UP!!

江越 大賀 ㉕

◆えごし　たいが/1993年3月12日生まれ。海星高出身。181㌢81㌔。右投右打。外野手。法学部法律学科1年。

「鳥肌がたった」。初めて立つ神宮の打席を江越大賀（法1）はそう振り返った。小林勇登（経3）以来となる新人開幕スタメン。将来有望な大型新人が早くも頭角を現した。中大2回戦、打線は8安打を放ちながら思うように得点には結びつかず敗戦を喫するが、その中で唯一の打点をたたき出したのが、1年生の江越だ。甘く入ったスライダーを見逃さず、神宮初安打がバックスクリーン直撃の特大アーチ。起用した指揮官は「（1年で）なかなかあそこまでは飛ばせない。彼は本当に楽しみ」と手放しにたたえた。

この活躍にも本人は至って冷静。「長打よりも大事なところで打てるようになりたい」。チームの勝利に貢献するべく、淡々と前を見据えた。（水出　綾香）